

## 民生常任委員会調査視察報告書

民生常任委員会  
副委員長 高坂 茂

期 日 平成 27 年 10 月 27 日(火)  
視察先 高岡地区広域圏事務組合(富山県氷見市)  
高岡エコ・クリーンセンター  
目 的 ・発電設備を備えたごみ焼却施設の概要  
・ごみ処理手数料の有料化について

### 施設概要

#### ◎高岡広域エコ・クリーンセンター（高岡市、氷見市、小矢部市）

- ・広域人口：約 25 万 6 千人
- ・施設稼働：平成 26 年 10 月
- ・処理能力：255 t/日 焼却炉 3 炉
- ・特 徴：ごみ焼却熱を利用しタービン発電機を設置（焼却施設建設費約 7.6 億円）

#### ◎十和田ごみ焼却施設

- ・広域人口：約 12 万人
- ・施設稼働：昭和 60 年 3 月(平成 14 年 6 月改造)
- ・処理能力：150 t/日 焼却炉 2 炉

今回、富山県にある発電設備を備えた最新のごみ焼却施設の概要を知ることと、年々増え続けるごみの減量化にどのように対応すべきかという観点からごみ袋の有料化について調査視察に臨みました。

ごみ焼却に対しては、地球温暖化の抑制が叫ばれている今日、少しでも環境に配慮した取り組みがなされなければならないと考えており、このことを念頭に施設の説明を受けました。

高岡広域エコ・クリーンセンターは、焼却により発生する有害物質の発生を抑制し、さらに、高度な排ガス処理により有害物質を除去している。また、焼却により生じた焼却灰は、搬入割合に応じた量を各市の最終処分場で埋め立てしている。排水については、すべて工場内で再利用し施設の外には排出しない構造となっているなど、周辺環境に配慮した施設となっているとのことでした。

施設の発電設備については、平成 26 年に稼働した最新の蒸気タービン発電設備を設置しごみ焼却に伴い発生する熱エネルギーを有効活用しており、最大発電量 4600 kw は、施設内の全電力を賄い、なおかつ余剰電力は 1 kw 当たり 17 円で電力会社に売電し、年間約 2 億円の貴重な収入源となっているとのことでした。しかし、現在はメンテナンス保証期間内であり費用は発生していませんが、今後はメンテナンス費用が発生する見込みであるということでした。このことから、今後は費用対効果を見極めながら、当事務組合のごみ焼却施設の改修又は建て替える際の参考としたいと考えます。

ごみの有料化については、事務組合で燃やせるごみの処理だけを行っていることから、「家庭系燃やせるごみ指定袋」を製作し、サイズに応じてごみ処理手数料の額を設定し販売しているとのことでした。

当組合ではごみの有料化は行っていませんが、まずはごみの排出量を抑制するための啓蒙活動等を行い、住民の意識改革を促す取り組みを行っていくことが先決であると感じました。

結びに、今回の調査視察をよりよいごみ処理の施設運営に生かしていくこととし、当事務組合が地域発展に寄与することを想い報告とします。

